

社会科（歴史的分野）学習指導案

I 単元名 「狩りから農耕へ ～自然と適応した人々の暮らし～」

II 単元の考察

平成33年4月1日から新学習指導要領が全面実施されることに伴い、平成30年4月1日より移行措置が実施されている。新学習指導要領の「B近世までの日本とアジア」の「(1)古代までの日本」を受けて設定した。この項目では身に付ける知識として「(イ)日本列島における国家形成」が挙げられ、そのための内容の取扱いとして「狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことに気付かせるようにすること」とある。「狩猟・採集」や「農耕」といった食糧確保の手段に目を向けながら、それが生活に与えた変化を考えられるようにしたい。

1949年、相沢忠洋によって岩宿遺跡が発見されたことで日本列島における旧石器時代の存在が明らかになった。旧石器時代は現在よりも冷涼な気候であり、海面も低い位置にあったため、日本列島は大陸と陸続きであった。こうした気候の中で、旧石器時代の人々はナウマンゾウやオオツノジカといった大型の動物を狩猟し、食糧としていた。そのために旧石器時代の人々は打製石器や落とし穴を掘る技術を生み出した。また、こうした大型動物の群れを追いかけ、旧石器時代の人々は移住しながら生活を送っていたため、定住のための住居は持っていなかったと考えられている。

今から1万5000年ほど前になると、地球環境は急激に温暖化し始める。こうした環境の温暖化は人々の住環境に大きな変化をもたらした。まず、クヌギやコナラといった広葉樹が茂る豊かな森が形成された。こうした豊かな森には多くの木の実が実り、シカやイノシシなどが生息した。また、温暖化したことにより海水面が上昇したことにより、日本列島が形成されるとともに、多くの内湾が形成された。こうした内湾に内陸から栄養を含んだ水や土砂が運ばれて、魚介類が繁殖した。このような変化によって狩猟・採集・漁労による食糧を安定的に確保できるようになっただけでなく、収穫の少ない時期に備えて蓄えることができるようになった。人々は動物を追って移住する必要性もなくなり、堅穴住居に代表されるような定住生活を営むことができるようになった。定住化は、移住生活では持ち運ぶことができなかつた様々な道具の使用を可能にした。その代表が土器である。土器の発明は木の実の煮炊きやアク抜きを可能にし、栄養の吸収をよくする効果があった。人々の健康維持や寿命を延ばすという点では大きな発明だった。その他にも石器の多様化や骨角器の発明など道具の多様化がみられた。こうした道具の多様化は生活を便利にするためだけでなく、石棒や土偶、祭祀具など精神世界を豊かにするものも発明された。こうした気候の変化とそれによる定住化によって生み出された文化を縄文文化と呼ぶ。定住が可能になった縄文時代の人々は集落を形成していく。青森県の三内丸山遺跡のような大規模な集落も発見されている。三内丸山遺跡は構成や配置が計画的になされ、大規模な土木工事によって造営された。東京ドーム7.5個分の広さを持ち、最大500人近くの人々が生活したと推測されている。こうした三内丸山遺跡に代表されるような東日本の大規模集落は縄文時代中期後半にピークを迎える。

しかし、縄文文化は単調に発展し続けていくわけではない。縄文時代後期になると、気候が寒冷化し食料の安定的な確保が難しくなり、それまで発展を続けてきた東日本の大規模集落は姿を消す。環境の厳しくなった東日本では食料確保に向けた工夫がなされるようになる。例えば、三内丸山などでみられ

ていたクリの栽培技術が広がる。こうした栽培技術の伝播は稲作が日本に流入してきたときの技術的な基盤となった。また、埼玉県赤山遺跡などではクリの安定的な確保が難しくなり、代わりにトチの実をアク抜きして食べていた形跡が残っている。さらに縄文時代晩期になると、再び気候が寒冷化する。狩猟・採集を基軸とする生活はますます厳しくなる。こうした中で紀元前500年～400年ごろに稲作が朝鮮半島から流入し、日本は弥生時代へと移行していく。寒冷化により海面が後退することで形成された平地が稲作の場となった。こうして人々は安定的に栄養価の高いコメを食べられるようになった。また、石器に代わり、青銅器や鉄器などの金属器が用いられるようになった。祭祀も農耕儀礼を中心としたものへと変わっていく。こうした一連の稲作文化は朝鮮半島から多くの人々がやってきて、それまで日本に根付いていた縄文文化と戦って駆逐していったわけではない。むしろ稲作技術を日本列島に住む人々がこうした文化を受容することで根付いていった。より安定した食料確保を目指し、こうした稲作文化を受容したのである。

旧石器時代、縄文時代、弥生時代という原始時代を通じて、人々は食糧獲得の手段を変えてきた。旧石器時代には大型の動物を狩猟し、縄文時代には豊かな自然を背景に、狩猟・採集・漁労を中心に食糧を確保した。それが縄文時代にはより安定的な食糧確保の手段として稲作へと移行していく。また、それぞれの食糧確保の方法はそれに伴う生活様式や儀礼へと影響を及ぼした。旧石器では大型の動物を追い求め、移住をしていたが、縄文時代には定住が可能になる。また、縄文時代の豊穡を願い、土偶などを用いて呪術が行われたが、弥生時代にはこうした儀礼の中心は稲の豊作を願うものへと転化していく。

一方で、こうした原始時代に共通する特徴として、2つのことが挙げられる。ひとつは、原始時代を通じて、広い地域や全国を統治する主体が存在しなかったということである。旧石器・縄文時代は人々は互いに協働しながら狩猟や採集といった生活を営んでいた。しかし、そこには身分や権力の上下関係は存在しなかった。弥生時代になると稲作を受容したことにより、指導者となるものが現れた。こうした部分には確かに古代へとつながる萌芽を見ることができるが、国家全体を統治する政治的主体は存在しなかった。したがって、原始時代を政治的な面から捉えるよりは、現存する考古資料を基に当時の人々の生活に迫る授業を展開したい。もうひとつは環境や技術への「適応」が挙げられる。旧石器時代や縄文時代には、寒冷化や温暖化が繰り返される中で、その環境に適応しながらより安定した生活や食料の確保を目指して生活の様式を変えてきた。また、稲作文化が大陸から流入したときに、それを排除するのではなく、より安定した食料を確保する手段としてこれを受容した。

平成29年度に加曽利貝塚が特別史跡に指定された。加曽利貝塚は縄文時代中期の北貝塚と縄文時代後期の南貝塚からなる8の字型の貝塚である。約2000年間にわたって造営された。その中からは、イボキサゴ、ハマグリなどの貝類をはじめ、狩猟した動物たちの骨や、魚類の骨も多く出土している。また、木の実を保存していた形跡も見られる。加曽利貝塚を見ていくことで縄文時代の人々が定住しながら豊かな自然に依拠した生活の様子を描き出すことができる。一方で、加曽利貝塚は今から3000年前ごろに姿を消す。ここから自然の厳しさに対応して生活を変える人々の様子を見ることができる。このことから加曽利貝塚を教材として取り扱うことで、縄文時代の特色を捉えることができる。

以上を踏まえて、本単元を次のように構成した。第一時では、旧石器時代と縄文時代の生活を比較し、その違いを探っていく。食糧確保のために移住をしていた人々が、縄文時代になり定住化していったことに着目させる。第二時では、加曽利貝塚が長くにわたって造営された理由を考えさせる。その中で地球環境が変動し、移住しなくても自然の豊かな実りを享受できるようになったという変化や土器の発明

といった技術革新に気付かせる。第三時では、縄文時代中期後半以降の寒冷化によって、人々の生活が変化したことに触れる。その中で、縄文時代の人々が気候の変動に試行錯誤しながら適応しようとした様子に気付かせる。同時に当時の人々の生活が徐々に発展しながら豊かになっていったわけではないことに気付かせ、生徒が持っている縄文時代のイメージをより深化させたい。また、厳しくなった環境への適応として稲作文化を受容したという点にも触れる。第四時には、単元のまとめとして、旧石器時代、縄文時代、弥生時代とはそれぞれどのような時代だったのかを振り返る。そして、それぞれの時代に共通した特徴を探し出し、原始時代の時代像に迫りたい。

III 単元の目標

- ・原始時代の人々の生活に興味を持ち、意欲的に意見を出して考えることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・環境に適応しながら生活を変化させてきたという原始時代の特徴について表現することができる。
(思考・判断・表現)
- ・それぞれの時代の生活の特徴について考古資料や遺跡から読み取ることができる。(知識・技能)

IV 単元の指導計画

時	学習内容と目標	指導上の留意点
1	<p>○旧石器時代と縄文時代にはどのような違いがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧石器時代と縄文時代の考古資料などからそれぞれの時代の特徴をつかむ。 ・旧石器時代と縄文時代の遺跡を比較し、生活の違いを読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代になると定住ができるようになったことに着目させる。
2	<p>○なぜ加曽利貝塚は長くにわたって続いたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代の海岸線と気温の変化を読み取り、気候が温暖になったことを理解する。 ・加曽利貝塚からの出土物を見ることで、加曽利貝塚が長期にわたって続くことができた理由を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の変化によって自然の実りが豊かになったことに着目させる。
3	<p>○縄文時代後期になると人口が激減するのはなぜなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候の変化のグラフから縄文時代後期になると気候が寒冷化したことを読み取る。 ・赤山遺跡でトチの実が食べられていた理由を考える。 ・三内丸山遺跡でノウサギやムササビが食べられていた理由を考える。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・弥生時代の特徴について表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲作を受容した背景には厳しくなった自然環境が関係していることに気付かせる。
4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○原始時代とはどのような時代だったのだろうか。 ・旧石器時代、縄文時代、弥生時代はそれぞれどのような時代だったか表にまとめる。 ・旧石器時代、縄文時代、弥生時代の共通点を探し出す。 ・原始時代の特徴を考え、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとにまとまり、できるだけ多くの意見を出す。

V 本時

1 題材名 原始時代のまとめ

2 目標

- ・各時代に共通する特徴について積極的に意見を出すことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・原始時代の特徴について環境に適応しながら生活を変化させてきた点に触れながらまとめることができる。(思考・判断・表現)

3 展開

時配	学習内容と生徒の活動	留意点 (○) および評価 (◇)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ●旧石器・縄文・弥生時代のそれぞれの時代の特徴についてまとめる。 ・表の穴埋めを行う。 ・旧石器時代～弥生時代までを含めて原始時代ということを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で作成した表を活用する。 ◇各時代の特徴について積極的に意見を書いている。 ○原始時代≒旧石器時代という考えを更新する。
展開 20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">原始時代はどのような時代だったのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ●旧石器・縄文・弥生の各時代に共通する特徴を探す。 ・4人班を作り、ホワイトボードに書き出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 予想される生徒の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・石器を用いていた ・小さなムラを形成していた など </div> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇原始時代に共通する特徴について積極的に意見を記入している。 ○多面的な意見を出させる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・出てきた意見を比較・対立・検討する。 ・もう一度班ごとに共通する特徴をホワイトボードに書き出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候によって生活が変わった ・気候によって食料が変わった など </div> <ul style="list-style-type: none"> ・出てきた意見を比較・対立・検討する。 ●個人で原始時代がどのような時代だったのか考える。 ・ワークシートに記入する。 	<p>○社会の本質的な共通点に気付かせるために、表を横の関係ではなく、縦の関係で捉えるような補助発問を行う。</p> <p>◇原始時代の特徴について環境に適応しながら生活を変化させてきたことを踏まえながらまとめている。</p>
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●原始時代の時代観について出てきた意見を比較・検討する。 ・何名か発表する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化や寒冷化に合わせて生活を変えた時代 ・安定した食料の確保を目指した時代 ・小さな集落で生活していた時代 など </div> <ul style="list-style-type: none"> ・出てきた意見に対する補足や反対意見を出す。 ・意見を集約し、ひとつの時代像をまとめる。 	

4. 評価

- ・各時代に共通する特徴について積極的に意見を出すことができたか。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・原始時代の特徴について環境に適応しながら生活を変化させてきた点に触れながらまとめることができたか。(思考・判断・表現)